



水戸市で行われたTPPに関する地方公聴会。同市の丸一の水戸京成ホテルで

コメに影響ない／関税撤廃メリット

# TPP賛否割れる

## 無許可農薬を懸念／強行採決は問題

### 水戸で公聴会

「たつた食品」が入ってくる。食の安全という観点からも絶対に反対だ」と述べた。

農民運動県連合会の岡野忠会長は、国会審議でTPPの交渉過程を示した文書が「黒塗り」で公開されるなど、政府の対応を批判。「今後どうなるのかよく分からない」というのが農家の実感。法案の「強行採決」はもってのほか

かだと語気を強めた。公聴会終了後、特別委員の福岡資麿理事(自民)は「(農業生産額)全国2位の茨城での開催は大変意義深いものだった。意見を今後の審議に生かし、議論を深めていきたい」と話した。

環太平洋パートナーシップ協定(TPP)の承認案と関連法案を審議する参院特別委員会の地方公聴会が17日、水戸市内のホテルで開かれた。米大統領選の影響でTPP発効が見通せない中、県内関係者からは不安と期待の声があがった。

公聴会には水戸市と北海道帯広市で行われ、水戸の会場では農業関係者ら4人が意見陳述した。

し、TPP特別委から派遣された委員の質問にも答えた。龍ヶ崎市でコメの生産、加工、販売の6次産業化に取り組む「横田農場」の横田修一代表は「TPPでコメへの影響はそれほどないと感じている」と説明。「価格競争力がつき、世界に輸出できる地域も出てくるのではないかと」と一定の理解を示した。

稲敷市に工場があり、自動車用のゴムなどを製造する「ミナトゴム」(千葉県船橋市)の田口昌也社長は「TPP参加国のベトナムにも工場があり、将来の関税撤廃によるメリットを感じている」と陳述。「我々としてはデメリットを避けるより、メリットを優先する」と強調した。

日本医師会の原中勝征・前会長(元県医師

会)は、TPPで日本の食料自給率が低下することを問題視。さらに「TPPが締結されると、日本で許可されていない農薬(を使用

【松本尚也】